

飯山市地方創生総合戦略会議 会議概要

1 会議名	令和2年度 飯山市地方創生総合戦略会議
2 日時	令和3年3月8日(月) 15時30分～17時
3 会場	市役所4階 全員協議会室
4 委員出席者 (順不同)	飯山商工会議所青年部会長、飯山商工会議所事務局長、 ながの農業協同組合みゆき地区担当理事、飯山市農業委員会委員、 信州いよいよま観光局常務理事、八十二銀行飯山支店長、 長野信用金庫飯山支店長、信州大学教育学部助教、 県北信地域振興局長(企画振興課長代理出席)、飯山市区長会協議会長、 飯山市若者会議会長、飯山商工会議所女性会理事、 飯山市男女共同参画推進委員会会長、飯山高等学校生徒会会長、 飯山高等学校生徒会副会長 庁内本部(市長、副市長、教育長、総務部長、民生部長、経済部長、 建設水道部長、教育部長、文化振興部長、議会事務局長)
5 報道関係者	(株)北信濃新聞社、iネット飯山
6 事務局出席者	企画財政課長、企画調整係長、企画調整係主査 まちづくり課長、計画係長

協議事項等

1 開会

2 市長あいさつ

(市長)

年度末のお忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

第1期の総合戦略は、平成27年度に策定し、計画期間5年の期限により、昨年6月に第2期の総合戦略についてご審議いただき策定したところである。

総合戦略については、計画期間5年間の中で毎年見直しを行いながら事業を進めていく。本日は1年目の検証についてご協議頂きたい。

この会議にお集まりいただいた皆様は市における様々な分野で構成されている。様々な角度からご意見をいただきたい。

3 経過報告

- ・令和2年3月19日 地方創生総合戦略会議(第1期戦略の検証、第2期戦略について)
- ・委員からの提案・意見聴取
- ・令和2年5月21日 地方創生総合戦略会議(委員意見取りまとめ、素案について)
- ・令和2年5月22日～6月21日 市民パブリックコメント
- ・令和2年6月23日 地方創生総合戦略会議(パブリックコメントの結果、案について)
 - ・令和2年6月23日 第2期飯山市総合戦略策定(説明 事務局)

4 協議事項（進行：会長（市長））

（１）第２期飯山市総合戦略 令和２年度における進捗状況の評価検証について

- ・資料１「第２期飯山市総合戦略 令和２年度における進捗状況の評価検証」
- ・資料２「第２期飯山市総合戦略 数値目標 令和２年度進捗状況」
- ・資料３「地方創生関係交付金活用事業（R2～R4）」

（説明 事務局）

（２）令和２年度の改訂について

- ・資料４「第２期総合戦略 令和２年度改訂について（案）」
- ・冊子 第２期飯山市総合戦略

（説明 事務局）

（会長）

（１）、（２）全体において、質問や意見等をお願いしたい。また、戦略以外においても自由をお願いしたい。

（委員）

戦略 60 ページにおいて、改訂案「新型コロナを地方創生の推進の追い風とし・・・」とあるが、言葉の並びに違和感がある。例えば、「新型コロナによる生活意識の変化を地方創生の推進の追い風とし・・・」など、言葉が足りない印象である。検討を。

（事務局）

意見を踏まえ修正する。

（委員）

質問であるが、定住人口について、令和元年から２年にかけて目標が「－310 人」に対して実績が「－382 人」になっている。過去のトレンドを見ると、概ね「－400 人」ずつ減少している状況であり、若干良くなってきているが余り変わっていない。５年後の目標「18,200 人」を達成するためにはここで手を打たなくてはならない。先ほど、コロナによる生活環境の変化により地方創生を推進する、という話があったが、コロナの影響で各自治体は移住に力を入れている。これまで移住したい都道府県として「長野県」が１位だったが、今回は３位に落ちた。長野県全体も含めアピールが不足している。

併せて KPI「市の支援による移住者数」の実績は「119 人」であり目標の「100 人」を上回っている。しかし、令和元年の数字が「120 人」ということもあって、必ずしも今年の実績が非常に良い数字ではないと思う。この数字は相当力を入れていかないと 5 年後の定住人口の目標である「18,200 人」は達成できないと思われ、来年度に移住に関する KPI の見直しについて検討が必要であると考えます。

（建設水道部長）

「市の支援を通じた移住者数」における実績「119 人」であるが、この数字は堅い数字

である。担当課からすれば、年度末に向けて移動されるされる方がいるという部分で、前年の「120人」を上回る、例年以上の数字になると予想している。

(委員)

KPIについて、来年度は「150人」にするなど高い目標に変えていかないと人口の目標「18,200人」は達成できないのではないかと。各自治体は相当移住施策に取り組んでいる。飯山市は新幹線が開通しているため他の自治体より有利の立場でありチャンスである。

(事務局)

貴重なご意見をいただいた。担当部局と調整し検討したい。次回にご意見を踏まえ KPI をどうするのか提案したい。

(委員)

移住定住に関して KPI を高めにするという話が出た。目標の考え方は若者の定住に力を入れるということだと思うが、テレワークなどの働き方が主流になったりなど、動く世代が幅広くなってきた。ついては、若者以外にも目を向けて移住支援であったり、若者だけの住宅整備だけではなく、バリアフリーにしたり、安全安心なまちづくりなど総合的に考えていただいたりすると、KPI を高めに設定しても増加が望めるかと思う。

(会長)

ご意見について、現在取り組んでいる状況について説明を。

(建設水道部長)

現在、移住者については若者向けに支援策を講じているが、新年度に向けて例えば U ターンで住宅改修する場合、若者・子育て世帯に限っていた支援を幅広い層を対象にしたり、空き家の活用においては、これまでは所有者に対しての補助制度はなかったが、所有者も空き家をリフォームして受け入れやすくするなど拡充した取り組みを新年度から盛り込んだ。今後、委員の意見を踏まえて研究していきたい。

(会長)

本日は、高校生が出席していただいている。飯山をこのようにしてほしいなど自由に意見をいただきたい。

(委員)

私は県外の大学に進学を考えている。大学卒業後の就職については、飯山に帰ってくるかと問われると分からない。理由は仕事の幅が少ないことが大きい。若者が帰ってきて住むことが大事であると思うが、それには幅広い職種や住みやすい環境を整えることが重要である。

仕事に来るだけの方にとっては、飯山は電車やバスで幅広く有利であり、仕事の間を創ることが人口増の改善につながると思う。

(経済部長)

高校生や大学生が飯山に帰り人口が増えていくということが一番良い形であるが、その際に働く場があるか、ということになってしまう。この地域にはあまり知られていないが多くの企業があり、いい仕事をされている企業が多い。また、市の企業誘致におい

ては、東京に企業誘致の推進員を置きながら飯山の方へ企業進出していただくような営業活動を行っている。また、市役所の南 100m程の所に「あすちやれ」という起業支援する建物がある。そこでテレワークしながら起業する試みをしていただく施設もあり、市外・県外から企業を呼ぶ込むための施策を行っている。

また、先ほど委員から話のあったテレワークにおいて、昨年飯山市でテレワーク専用の住宅を4戸整備した。IT企業の方に住んでいただいて仕事ができ、将来は飯山へ住んでいただいて起業することもできる。また、首都圏、県外の企業が飯山へサテライトオフィスなどの営業所を開設した場合の支援として助成金制度がある。そのような事業が移住定住にもつながる。

(会長)

地元の方にも富士通さんやマウスコンピューターさんなどIT関連の企業があるが、企業側の立場で言うと、なかなかほしい新卒の方の確保が厳しくなってきていると聞いている。是非企業見学などしてほしい。

(委員)

子育て支援「ママサポ」を手伝っている。県外から移住されてきた方の参加が多く、毎週通うことを楽しみにしてくださっており、やりがいを感じている。県外から移住してきている人が多いと感じているので子育て環境が良いことをアピールしてほしい。なお、今、若い親が必要としていることはサポートである。単にお金を支援するだけではなく、“人のサポート”である。

休日保育は始めてから5年程であると思うが、もう一步踏み込んでほしい。弁当を持って、布団も持って、お茶も持って行くことはハードルが高い。勤め人にはそういった用意は困難である。完全な給食などは思っていない、例えば近くのパン屋さんと連携し、パンと牛乳だけなどでもいいと思う。できるところから工夫して実施してほしい。若い女性をサポートしていくという視点からも大事である。

また、主任児童員も担っているが、市職員は是非リーダーシップをとって自分達で工夫してほしい。役員に頼ることも良いが自分達も勉強して自ら取り組んでほしい。

(教育部長)

休日保育の関係であるが、今後の保育園のあり方について見直しをする中で、できることから取り組んでまいりたい。

(民生部長)

移住の話もあったが、人口を増やすためには“子育てしやすいまちづくり”や“共働きで生活しやすいまちづくり”などの切り口も大事だと考える。保育、教育など様々な施策を実施する中で子育てしやすい町のランキングなどにおいて、松戸市が日経の調査では1位になっている。松戸市のホームページを拝見すると、実施している施策は飯山市も遜色ない。ついては、子育てしやすいまちをうまくPRするとともに、常に事業の見直しスキルアップを図ってまいりたい。

(会長)

子育て支援に関する事業は生まれる前から出産、子育てなど細かに実施しているが、

PR が足りていないためもっと PR に努めて移住定住につなげていきたい。

(委員)

住民代表の立場として、また、孫の子守などの経験から子育てしやすい環境整備などについて意見する。

飯山市には子ども館「きらら」があり、館内には読書や絵を描くスペースや遊具がある。体育館は小学生以上の遊び場が中心のように思え、未就学児や幼児などが遊べるスペースが少ないと思う。この近辺では例えば新潟県に「わくわくランドあらい」があり、体育館の大きなスペースで 2 階からプールへ滑り台で降りるような設備があったり、ボルダリングや指導員がいて簡単な工作の指導をしてくれる。また、上越市の「市民プラザ」のこどもセンターにはアスレチックのような大型の複合遊具があり子どもが館内で体全体を使った遊びができる設備がある。各施設は 0 歳から小学校 3～4 年生まで親子で、また市外の方でも遊ぶことができ、親同士が交流できる施設である。飯山市には屋外については城山公園や運動公園があるが、小さな子どもが利用するにはもう少し仕掛けが足りないような気がする。また、雨天や冬期に利用できないことも仕掛けが必要である。私の知る限り、長野市北部ではこのような設備がなく、子ども公園のように位置づけながら土日、祝日を含め利用できる場所を整備すれば、車社会なので市外も含め多くの方が利用でき、屋内・屋外ともに親子や親同士が交流できる施設、子育てしやすい場所となり、年若い世代の移住につながると期待できる。経費も要するが今後、保育園が空いてくるのでそういった施設も活用したりするなどそういったところから取り組んでみてはいかがか。

また、病院関係であるが、昨年に飯山赤十字病院の中核病院としての維持存続の署名を行った。自分自身も高齢者となり病院は命を守る上で重要である。病院の存続については、予てからの課題であるが、高齢化の加速、集落の点在や病院までの交通機関の問題も含め、病院とセットでどれも難題である。子育てにおいても産科や小児科も充実も重要課題であると思う。飯山市も医師等の確保の制度があるが、そうした病院の充実により住民の安全安心、移住定住につながればと思う。

(まちづくり課長)

城山公園整備については、昨年まで一通り整備は終えた。また来年度からお休み処をはじめ、南大手門整備を 5 年かけて実施する。先程の遊具に関するご意見については、平成 30 年度に部分的ではあるがアスレチック等を設置した。今後についてもご意見を伺いながら充実を図りたい。

(会長)

子ども達が親子で訪れ楽しめるような公園づくりを目指したい。お休み処についてもそういったことを踏まえ整備をしなければならない。

(経済部長)

1 日ゆっくり遊べるような場所についてご提案いただいた。現在計画していることは、道の駅千曲川を拡充する計画である。非常に人気のある道の駅であり、農産物直売所やカフェ、レストラン等があり多くの方が来場されているが、駐車場も含め狭い状況にな

りつつある。については、建物や駐車場を拡充し整備を行い、令和4年の秋のオープンを目指している。更にそこはアクティビティ拠点施設としてサイクルツーリズム、スキー、カヌーなどの発信基地にしていきたい。そういった施設の整備により、家族が1日ゆくりと遊べる場所にしていきたい。現在はその基本構想を検討している。

(委員)

私達の世代、若い世代において、この1年間で移動販売車が始まったり、駅周辺で新店舗ができたりなど日々の生活の中でもきらりと光るものがあった。また、高校生のチャレンジがふるさと納税につながったりと、コロナ禍で大変な状況であったが、いい計画や関りが増えたと実感している。

住宅を建てる世代が20～30、40代であり、そこで出てくる話に、災害が心配であるため災害に強い家を建てたい、〇〇の地区は災害がないからいいなどそういった話がある。総合戦略の中で様々な施策が出ているが、“災害に強いまちづくり”をもう少し具体的に見えてくると飯山市内に家を建てる、或いはリフォームするなど、チャレンジするような追い風となる。

また、ネット環境を整えるという話において市内も大分整ってきており、各地でもフリースポットがあるが、コワーキングスペースなど都会の人が来て仕事をする際はネット環境が整っていて仕事をしながら生活ができるといったように具体的に見えてくると良いと思う。

山を買ってキャンプをするなどテレビやニュースにおいてアウトドアがブームになってきており、同世代や40・50代も注目してきている。経済部長から話があったアウトドアの拠点整備は楽しみである。

(まちづくり課計画係長)

委員から話があった、家を新築されるとき若い世代の選択条件“災害に強い”ということであるが、最近若い世代の方が家を新築されるケースが多く、土地を探しているという情報も伺っている。これからのまちづくりにおいては、一昨年水害を踏まえ、“水害に強いまちづくり”に一層力を入れていくとともに若者定住を促進していきたい。

また、まちづくり課では、雨水排水事業を新年度から力を入れ5年ほどかけて実施していく。そのような取組みも今後情報発信しながら安心して暮らせるまちづくりを目指し進めてまいりたい

(総務部長)

災害の関係においては様々な計画の中で取り組みを行っている。地域防災計画、昨年は水防計画を作成した。今年は災害における最悪な事態を想定した対策を講じる国土強靱化地域計画を策定中であり、ソフト、ハード共に取り組んでいる。

また、水害については、国の緊急対策プロジェクトに取り組んでおり、遊水地や千曲川の浚渫などの大きな事業にも取り組んでいただいている。

(経済部長)

市内におけるWi-Fiの整備であるが、飯山駅内各所の他、昨年は愛宕町を全体的に整備したり、森の家などの観光施設に整備したりしている。まち全体で使えるようになる

と、まちの環境が変わり、歩く人も増え賑わいも創出される。

(会長)

委員の意見は、駅や観光施設のみならず、まち全体どこでも使えるようにしたら良いという意見である。今はデジタル時代である。そのくらいのレベルでの整備が必要だと考える。

また、災害の関係であるが、現在の対策を分かりやすく発信する必要がある。伝わるように発信しなければならない。

(委員)

昨年、コロナ禍で感じたことであるが、県をまたぐ移動が難しい中、サップというボートを購入し、身近な千曲川を下ろうとしたが、濁度レベルが高く断念した。仲間と検討し北竜湖へ向かった。これまで42年間飯山にいたが、初めて北竜湖の良さを知った。素晴らしフィールドが飯山にあることを知り毎週のように通った。改めて、飯山市にはいい場所があることを感じた。

高校生の皆様は大いに都会に行って、学校を卒業したらすぐに戻ってこなくても良い。社会の荒波に揉まれてからふるさとへ戻ってきて飯山の良さを感じてほしい。

42歳の責任世代として、この地域に生きる大人として、私は身近で飯山を発信していきたい。改めて飯山の素晴らしさについて SNS などを使いながら近所、同世代の仲間を巻き込みながら発信していきたい。私のような飯山の良さを気付いた者が増えてきている。そういった足元というかこの地域に生きる者の意識を変えることも大事だと思う。

(会長)

高校生の皆様にはまずは世間を知っていただくために外を見てくることは重要である。ただし、ずっとそうならないように是非飯山で活躍してほしい。

(委員)

定住人口のほかに、関係人口は、今回の総合戦略では意識すべき大きな指標・数値であると考え。事務局から説明のあった関係人口の積み上げはふるさと納税とふるさと飯山会の合計であるが、果たしてそれが本流なのか。これからの時代はデジタル社会において様々なつながりが必要である。再検討が必要であるのでは。

(会長)

関係人口の捉え方は難しいがふるさと納税者の考え方は飯山市においては財政面では大きな役割を果たしている。他にも様々ある。長野県でも二地域居住の協議会ができる。今後の地域の活性化につながる仕組みづくりを検討していきたい。

以上、これまでいただいた意見を踏まえ、事務局においては、今後中身の充実した戦略にすること。

(3) 意見交換

※ (2) で実施

(4) 今後の予定

- ・3月下旬改訂
- ・8月頃 地方創生総合戦略会議
(説明 事務局)

5 その他

(事務局)

今後も総合戦略の効果検証に引き続きご協力をお願いしたい。なお、本日もご意見いただいた内容を踏まえ、戦略を修正し改訂版を郵送する。大変お疲れ様でございました。

6 閉会